



日本遺産「国境の島 壱岐・対馬・五島 ～古代からの架け橋～」

日本遺産認定10周年

1. 日本遺産について

地域の歴史的な魅力や特色を通じて、地域の文化・伝統を「物語(ストーリー)」として、日本遺産審査委員会(有識者等で構成)の審査をふまえ文化庁が認定するもの。ストーリーを語る上で不可欠な魅力ある有形・無形の文化財群を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内外に戦略的に発信することにより、地域の活性化を図ることを目的としている。

<日本遺産の認定状況>

年度	申請数	認定数	(累計)
平成 27 年度	83件	18 件	—
平成 28 年度	67件	19 件	37 件
平成 29 年度	79 件	17 件	54 件
平成 30 年度	76 件	13 件	67 件
令和元年度	72 件	16 件	83 件
令和2年度	69 件	21 件	104 件

※東京オリンピック・パラリンピックまでに 100 件程度の認定を目標とする。

※令和 2 年度から、総括評価・認定審査が導入され、成果や取組が乏しい地域は認定が取り消される。

※令和 3 年度から、日本遺産候補地域の制度が設けられ、令和 3 年度 3 件(申請:20件)、令和 4 年度なし(申請:4 件)、令和 5 年度なし(申請:1件)が候補地として決定される。

※令和6年度には、「北海道の『心臓』と呼ばれたまち・小樽」(北海道)を新たに日本遺産に認定。一方、「古代日本の『西の都』」(福岡・佐賀県)を日本遺産から取り消し、候補地域とした。

2. 国境の島 壱岐・対馬・五島 ～古代からの架け橋～ について

(1) 認定日

平成27年4月24日

(2) 概要

日本本土と大陸の中間に位置することから、長崎県の島は、古代より、これらを結ぶ海上交通の要衝であり、交易・交流の拠点であった。

特に朝鮮との関わりは深く、壱岐は弥生時代、海上交易で王都を築き、対馬は中世以降、朝鮮との貿易と外交実務を独占し、中継貿易の拠点や迎賓地として栄えた。

その後、中継地の役割は希薄になったが、古代住居跡や城跡、庭園等は当時の興隆を物語り、焼酎や麺類等の特産品、民俗行事等にも交流の痕跡が窺える。

国境の島ならではの融和と衝突を繰り返しながらも、連綿と交流が続くこれらの島は、国と国、民と民の深い絆が感じられる稀有な地域である。

3. 本県の日本遺産について

本県においては、国境の島 壱岐・対馬・五島 ～古代からの架け橋～ を含め4つの「物語(ストーリー)」が日本遺産として日程されている。

○国境の島 壱岐・対馬・五島 ～古代からの架け橋～

平成 27 年認定

自治体:長崎県(事務局)、対馬市、壱岐市、五島市、新上五島町

オフィシャルサイト <https://kokkyonoshima.com/>



○日本磁器のふるさと 肥前 ～百花繚乱のやきもの散歩～

平成 28 年度認定

自治体:佐賀県(事務局)、唐津市、伊万里町、武雄市、嬉野市、有田町

長崎県、佐世保市、平戸市、波佐見町

オフィシャルサイト <https://hizen400.jp/>



○鎮守府 横須賀・呉・佐世保・舞鶴 ～日本近代化の躍動を体感できるまち～

平成 28 年度認定

自治体:横須賀市、呉市(事務局)、佐世保市、舞鶴市

オフィシャルサイト https://www.kyugun.jp/nihon_isan/



○砂糖文化を広めた長崎街道 ～シュガーロード～

令和 2 年度認定

自治体:長崎市(事務局)、諫早市、大村市、飯塚市、北九州市

嬉野市、小城市、佐賀市

オフィシャルサイト <https://sugar-road.net/>

